

## 標準法医学・医事法

第6版



編集：石津日出雄，高津 光洋  
編集協力：池田 典昭

B5 頁468 2006年  
定価6,195円(本体5,900円+税5%)  
[ISBN 978-4-260-00193-9]医学書院刊

『標準法医学・医事法 第6版』は，スタンダードな教科書の名に恥じない重厚さ，詳細さに加えて，法改正や社会情勢の変化をタイムリーに捉えて，医師が知るべき法知識を網羅した座右の書である。学生，臨床医に加えて，若手・ベテランを問わず法医学実務家必携の書でもある。

法医学は，解剖，検査，法的対応など多様な分野を網羅している。死因の種類も千差万別，一例一例異なった既往歴・素因，生活状況，受傷状況，治療経過を有する死体や生体に対して，正しい判断，適切かつ迅速な対応を求められる。医師はまた，死因の考え方を正しく理解し，死亡診断書や死体検案書に正しく記載しなければならない。これも法医学で学ぶべき領域である。今回，新たに加わった若手学者を加えて，法医学会を代表する気鋭の執筆陣が各々，得意の分野に持てる力を注ぎ込んで執筆したことが頁ごとに彷彿させられる。

詳細な記載に加えて，各執筆者の貴重な事例の写真が多数配されている。また，単なる図解に留まらず，血液型・親子鑑定の理論を理解するのに助けになる図や表，そして頭部外傷，窒息，ショックなどの病態を理解するために工夫されたフロ

ーチャートなど，法医学実務家にとってもありがたい内容である。加えて，「観察のポイント」「検査のポイント」は，臨床医が現場で注意すべきポイントであるとともに，実務家が自らの実務内容を再チェックする際，きわめて有用な確認リストとなる。反面，学生にとっては難しすぎる，詳しくすぎる向きもあり，事例を挙げた解説的な記載があってもよいという気もする。

医事法に2割のページを割いている点も，法医学の教科書にあっては特異である。医師法など定型的内容に留まらず，医療法・福祉関連法，そして，生命倫理の知識と適用を要する最新の医療に対応する部分に頁を割いている。序論に，法医学とは「法律上問題となる医学的事項を検査，研究し，それによって問題点を解明して，法的な解決に寄与することを目的とする学問である。……一般臨床医は，疾病予防などの医療行政上のみでなく，司法分野にかかわる役割を担っており，適切な判断，決定，実際の行動を課せられている」と書かれており，臨床医が法医学的知識と思考法を持つことの重要性が強調されている。

これまで，刑事・司法的な側面のみが法医学の領域と考えられてきた。しかし法医学には，もっと広い視点が求められる時代を迎えている。医療事故においても，単に死因を決定し，医師の法的責任を判断することに留まらず，事故の再発予防，補償，関係者の人権擁護を図る方策が求められるようになってきた。その他，労災，虐待，中毒，自殺など，法医が日常対応している事例から学び，社会に方策を提言していくことが求められている。『標準法医学・医事法 第6版』は，そのような問題を満載した啓発書でもある。